

ドキュメンタリーDVD 上映会&講演会 IN 愛知(1)

標題のつどいが6月24日午後、名古屋市立大「さくら講堂」で開催された。主催は「バクバクの会～人工呼吸器とともに生きる」、共催団体は名古屋市立大人文社会学部、NPO法人わっぱの会、名古屋「障害児・者」生活と教育を考える会。盛りだくさんの内容であり、多くのことを学び伝えたいことも多い。数回に分けてレポートしていきたい。



梅雨の真っ盛りだが、この日は曇りがちの天気。開会前から続々と多くの人々が会場に詰めかけた。オープニング「セレモニー」として、車いすの子どもたちが元気に開会を宣言。写真のマイクを向けられている子どもは、この日のために広島から駆けつけた、地域の学校に元気に通う小学3年の正木篤くん。つどい終了後、地下鉄で途中まで偶然一緒することができた。通称「あつぼん」くんについては、またレポートしたい。

セレモニーに続いて、共催団体の名古屋市立大の伊藤恭彦副学長・人文社会学部長が挨拶した。こうした共催は、昨年12月3日の映画「みんなの学校」上映会&講演会に続いて二度目である。今回は社会福祉を学ぶ多くの学生さんが設営から案内、進行、片づけなどに奮闘してくれた。わが「ふるさと」の学生さんの活躍する姿を近くで見ることができ、こんなに嬉しいことはなかった。



このあとドキュメンタリーDVD「風よ吹け! 未来はここに!! 人工呼吸器をつけて地域で生きる ともに生きる力を育もう」上映。この60分のDVDはバクバクの会が昨年制作したもので、今回「5大都市上映会」最後を飾るものという。出演者は人工呼吸器ユーザー6人。まずは子ども3人から。保育園に通い日々たくましく成長している広島市の中島環くん、通常のクラスの中で学校生活を楽しんでいる箕面市の巽康裕くん、支援学校に通い旅行なども楽しむ大津市の諾浦綾乃さん。次に、人工呼吸器をつけて活躍する3人。尼崎市の平本歩さん、箕面市の岸本彩さん、池田市の折田涼さん。みんな違って、みんな一緒。それぞれ個性と力強さを感じさせた。



講演に登場する林京香さんの学校生活を思い出しながら、ドキュメンタリーを観た。あっという間に60分が過ぎ、上映の終了とともに拍手が。人工呼吸器をつけて地域で生きる姿から、ともに生きる力と課題を考えさせられた。次の講演で課題はより明確に。

(2017年6月27日)